

副議長選挙に係る所信表明会会議録

令和3年5月19日

議 場

令和3年5月19日

午後2時49分開会

午後2時59分閉会

○副議長選挙所信表明

- 1 金子益夫議員
- 2 加藤大弥議員

以上のてんまつは会議録のとおりであるので署名する。

議会運営委員長

佐藤 耕 一

○佐藤耕一 議会運営委員長 ただいまから、副議長選挙に係る所信表明会を開会します。（午後2：49）

私は、本会の進行を務めさせていただきます、議会運営委員長の佐藤耕一です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、副議長選挙に係る所信表明を行っていただきます。

所信表明申出書が2名の方から提出されました。所信表明はくじ引で決定のとおり、順次演壇で行っていただきます。なお、お時間はおおむね5分の範囲内でお願ひします。

初めに、金子益夫議員をお願いします。

なお、推薦議員は、皆川英二議員です。

（金子益夫議員 登壇）

◆金子益夫 議員 翔政会の金子益夫でございます。翔政会の皆さんをはじめ、多数の皆さんから御推薦をいただき、今回副議長選に立候補をさせていただきました。私は非常に自分では健康だと思っておりますが、年齢的にはもう77歳。しかし、日本の総理も私とほとんど同じ、世界の指導者たるアメリカ大統領は、私の1個年上であります。老骨にむち打って、選ばれた古泉議長とともに議会の円満な進行のために頑張っていきたい。

また、日頃考えていますのは、もう合併して15年、16年たったわけですが、やはり地方分権の中で、財源の伴う8つの区の編成、それから、日本には日本型の農業があってもいいのかなということ。喫緊の課題はまずコロナ対策、この辺に力点を置きながら、副議長として頑張っていきたいと思っております。どうぞ皆さんよろしくお願ひいたします。（拍手）

○佐藤耕一 議会運営委員長 次に、加藤大弥議員をお願いします。

なお、推薦議員は、宇野耕哉議員、細野弘康議員、小柳聡議員、高橋聡子議員です。

（加藤大弥議員 登壇）

◆加藤大弥 議員 民主にいがたの加藤大弥でございます。副議長選挙に当たり、所信の一端を述べさせていただきます。

まずは、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた皆様の御冥福をお祈り申し上げますとともに、感染された皆様の一日も早い回復をお祈り申し上げる次第です。

このウイルス禍によって、私たち国民、市民に甚大な影響を及ぼしていることは、今さら申し上げることではないかもしれませんが、昨日発表された日本の2020年度のGDP、国内総生産がマイナス4.6%で、戦後最悪の数字を示しているということが、この間の厳しい状況、一つの象徴的な数字として表れていると言えるのではないのでしょうか。しかし、今だからこそ、政治に求められているのは何なのか、しっかりと議論、あるいは考えをまとめていかなければいけないと思っております。

それは、やはり何といたっても政治は弱い立場、社会的弱者の人たちに光を当てるための政策を展開することが、今まさに政治に求められている課題だろうと考えているところです。例えば、ウイルス禍が母子家庭に甚大な影響を及ぼしているということが、最近の報道などでも紹介されています。本当に困っている、明日の生活、今日、明日の食事をどう確保しなければならないかということで呻吟している人たちに、政治が、行政がしっかりと手を差し伸べていく、そんな議論を展開していかなければならないと思っております。ワクチン接種の課題にも、もちろんしっかりと対応しなければならないわけですが、本当に困っている人たちへどう手を差し伸べていくのかといったことについても、議論をしっかりと展開していくことが、今、地方政治において求められている課題だ

と思っています。そのため、私たち地方議会での議論をもっともっと深めていかなければいけない
と
思っているところです。

また、少子高齢社会への対応についても、ますます重要度を増していると言わなければなりません。子育て支援の拡充策をどう展開していくのか。私は、議員になって1年目から、こども医療費助成の拡充について議論を展開してきました。このたび、通院について高校3年生まで対象を拡充するということは大いに評価しているところですが、これがゴールではありません。新潟県との関係性も含めて、もっともっと議論を深めていかなければなりませんし、子育て支援全体の中で、出産からも含めた支援策をどう展開していくのか。もちろん教育も同列に扱っていかなければなりません。学力だけでなく、子供たちの健やかな成長、豊かな人間性を育むための教育行政についての議論をもっともっと深めていかなければならないと思っています。デジタル技術を活用した教育の在り方についても、光の部分だけではなく、何がデメリットなのかといったことについての議論が十分ではない、これからもっともっと展開していかなければいけないと考えています。

少子超高齢社会への対応についてもう一点、やはり、地域包括ケアシステム充実に向けた議論ももっともっと深めていかなければなりません。このことがますます重要になってきていることは、皆様も共通の認識だと思っています。介護と医療の連携をしっかりと図りながらシステムをどう構築していくのか、制度あってもサービスなしとならないような議論を深めていかなければならないと思っています。

また、男女共同参画の課題についてもまだまだ道半ば、真剣な議論が必要です。

また、地球環境に目を向けてみれば、温暖化対策についてもしっかりと議論を深める必要があろうかと思えます。シンク・グローバリー、アクト・ローカリー、地球規模で考え、地域でしっかりと行動を起こしていく。地球は未来の子供たちからの借り物です。借りたものはしっかりと元の状態で返していく、引き継いでいく、こういった視点で議論を深めなければ、グretaさんに叱られてしまいます。新潟市議会がそのようなことにならないよう、議論を深めようではありませんか。

もう一点、執行部との関係性について申し上げたいと思います。もとより二元代表制の地方議会です。よいものはよい、駄目なものは駄目、是々非々の対応が必要なことは言うまでもないことだと思います。執行部との緊張感のある関係を構築することで、市民の皆さんの声をしっかりと政策に反映していく、よりよい政策が実現できる、そういった流れをつくることが重要だと確信しているところです。

そして、それを担保する考え方、価値観として、民主主義の普遍的な価値である少数意見の尊重があろうかと思えます。それを議会において形にするために、私が副議長の任に当たることは重要な意味を持つてくるのだと言わせていただきたいと思っています。少数会派の意見や主張であっても、よいものはよいとして、しっかりと政策に反映させていくためにも、それを実現しやすい議会の体制として重要で必要な副議長として、その任に当たりたいと思っています。議長を補佐することは当然のこととして、これらの課題解決、前進に向けて真つすぐ、真剣に挑戦、議論を展開していきたいと思っていますので、どうぞ皆様方の御理解を賜りますようお願い申し上げます、副議長選に当たっての所信の表明とさせていただきます。御清聴誠にありがとうございます。（拍手）

○佐藤耕一 議会運営委員長 以上で、副議長選挙に係る所信表明を終わります。（午後2：59）